

## 『「ありがとう」という感謝の心を育みましょう』

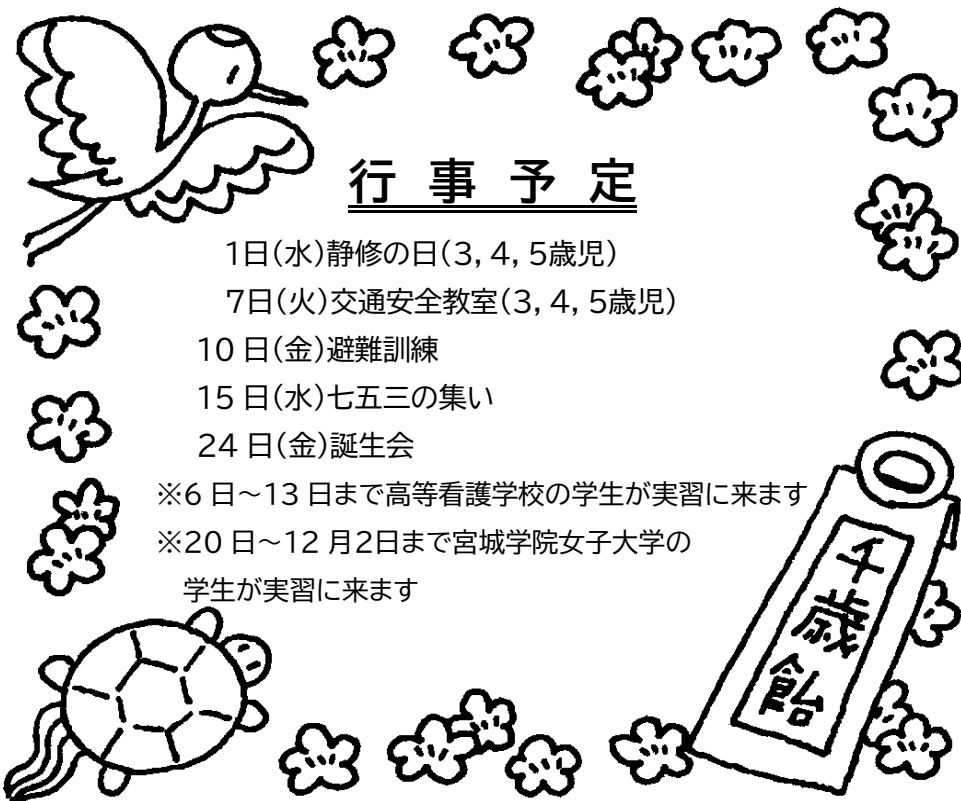
だんだんと秋が深まり、朝夕の冷えが増してきました。天気の良い日は園の周りを散歩したり、駅前公園まで足を運び、赤く染まった落ち葉を拾い集めたりトンボを追いかけたり、秋を満喫している子ども達です。寒暖の差が激しいので衣服調整を行いながら元気いっぱい遊べるようにしていきたいと思えます。

11月は七五三があります。保育園では大きく成長したことを神様に感謝する特別な日でもあります。成長を見守って下さった神様、沢山の愛情を注いでくれたお父さん・お母さんに心から感謝いたします。

今月の目標である「感謝」について考えると、昔、伯父に頼まれて何度か祖母の介護を引き受けた時のことを思い出します。介護といっても簡単な身の回りの世話や話し相手になる程度でしたが、爪を切ってあげた時のこと。介護経験のある方はご存知かと思いますが、老人の爪は硬くて分厚く、切るのは少々技術を要します。案の定、深爪をさせてしまいました。祖母は一瞬痛がりましたが、深く息を吸い“フーッ”と指先に息を吹き掛けました。そして穏やかな口調で「ありがとう」とひと言。「ごめんなさい」と謝る私に感謝の意を表したのです。痛かっただろうに…。30年近く経った今でも忘れる事の出来ない祖母の姿です。

“相手のことを敬い、心から感謝出来る人になりなさい”と知らせてくれたような気がします。家族、職場、自然…全ての恵みに感謝しながら過ごす月といたしましう！

< 園長 山田 紅美子 >



## 行事予定

1日(水)静修の日(3, 4, 5歳児)

7日(火)交通安全教室(3, 4, 5歳児)

10日(金)避難訓練

15日(水)七五三の集い

24日(金)誕生会

※6日～13日まで高等看護学校の学生が実習に来ます

※20日～12月2日まで宮城学院女子大学の学生が実習に来ます

## おねがい

朝晩と日中の気温差が大きく、服装に悩む季節ですね。

朝に所持品の片付けをしていると、「オムツがいっぱいで入らないな～」という場面や、着替えをしようと衣装ケースを開けると「服がな～い」という場面が時々あります。

送迎時、衣装ケースの衣服の確認やオムツの枚数確認を行っていただくと、子ども達にとって快適な環境が整います。

(衣替えも宜しくお願いします)





## 今月の目標 『「ありがとう」という感謝の心を育みましょう』

### ばんび組(0歳児)

◎安心できる大人に見守られながら、自分の気持ちを動作や喃語で表して遊ぶ

### ひよこ組(1歳児)

◎簡単な身の回りのことを、保育者に手伝ってもらいながら自分でしようとする

### ことり組(2歳児)

◎自分で衣服の着脱をしたり、脱いだ服を畳もうとする



### こねこ組(3歳児)

◎いろいろな素材に触れ、自分なりに表現することを楽しむ

◎身の回りのことを進んで行い、自分でできる嬉しさを感じる

### うさぎ組(4歳児)

◎自分の思いや考えを伝え、友だちの思いを聞こうとする



### ひつじ組(5歳児)

◎物語や経験を遊びに取り入れたり、表現を工夫する楽しさを味わう



くみ園長の  
“やばい”話

園庭から、いつものように子ども達の賑やかな声が聞こえてきました。元気だなあとしあわせに浸っていると「ムムッ!？」聞き捨てならない「やばい!!」発言。しかも、2歳児の子。何が“やばい”のかなあと問い掛けても「んー…」と首を傾げ、よくわからない様子。「あのね、〇〇のパパとママも言ってるよ」と一言。これはきっと、お父さんやお母さんの姿を見て覚えた言葉のひとつなのでしょうね。そこで、みなさんに是非読んでいただきたい文献を見つけましたので、抜粋してご紹介します。心にとめていただけたら幸いです。

近年、頻繁に使われている「ヤバい」は誰もが知っている言葉ではないでしょうか。この言葉の使い方は様々ですし、受け止め方も様々です。自分の真意が相手に伝わっているとは限らないし、自分の受け止め方が相手の真意かどうか分からないのです。そのため、気持ちの行き違いが起こり、ケンカになったりコミュニケーションが取れないこともあります。今を生きる乳幼児期の子ども達は、感情語が十分に身につく以前に「やばい」を耳にする機会が多いです。これはとても危険です。それは、自分が知っている感情語でしか受け止めることができないからです。

言葉は、コミュニケーションに欠かせない大切な伝達ツールです。大人が子どもに言葉を教えるように、気持ちにも名前があることを伝えてあげて欲しいです。

例…今日の給食はなんだろうね。**楽しみ**だな。あ、カレーライスだよ。

先生、カレー**大好き**。給食のこと考えると**ワクワク**しちゃう。一つの一つの文章に気持ちをプラスして伝えることで、会話を楽しみながら、感覚的にリアルタイムで言葉の意味を理解することができます。子どもに「どう思った?」と聞く前に大人の気持ちを言葉にして、気持ちに名前があることを体感させてあげましょう。

「保育界」より